
臨也の類

来夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

臨也の類

【コード】

N3554U

【作者名】

来夢

【あらすじ】

交通事故で死んでしまった臨也に、静雄が本音で語りかける。もう届くことのない静雄の思い……。

(前書き)

臨也が死んでしまいます。

悲恋が苦手な方や、臨也が死んでしまうのが嫌な方は閲覧をお勧め
しません。

臨也が、死んだ。

俺が本気で戦っても決して死ななかったのに、あつけなく事故で死んでしまった。

新羅によると、仕事に夢中になっていたところをトラックに轢かれたい。

どんなに強くても、人間の最後はこんなにもあつけなくて儂いもの。もう二度とナイフを持つことのない臨也の手をぎゅっと握ると、まだほんのり

暖かい気がした。

臨也はいつも余裕の表情で、騒ぎの一步外からその喧騒を引っかき回して楽しむ

ようなやつだった。

そのくせ俺が喧嘩を仕掛けると、抜群の瞬発力と運動神経で俺の攻撃を余裕で軽

く身を翻してかわし、隙を見つけては容赦なく攻撃してくるようなやつだった。

だから……、だから、俺は臨也が大嫌いだった。

大嫌いだけれど、それと同時に信頼もしていた。

こいつとなら俺が本気で戦えると、こいつは俺が唯一本気で戦うことが出来るやつだと。

だけど、目の前に居る臨也はもう俺と喧嘩をするどころか、瞼を開いて、宝石のように深紅の瞳を見せることもない。

目の前の臨也は、いつもの黒いコートに包まれ、白くきめ細やかな肌には、鮮やかな赤色の血をつけ、少し悲しげな表情を浮かべているだけだった。こうして見ると、臨也は綺麗で、繊細で、儂くて、俺なんか触れたらすぐに壊れてしまいそうに思えた。

大嫌いで死ね死ね言っていたこいつが漸く死んでくれて嬉しいはずなのに…、嬉しいはずなのに、何故か心臓は激しく痛み、熱を持つ。

「い…ざや…。」

胸が詰まって、上手く声が出なかった。

こんなやつごときに泣きたくなかったのに、涙はとめどなく流れてくる。

ぼたりと落ちた涙は臨也の白く、小さな顔に落ちる。

だけど漫画や小説のように生き返るなんてことはなく、臨也は動かないままだった。

臨也の顔に落ちた涙を拭うついでに、臨也の青白くなってしまった頬にキスをする。

臨也の頬にはもう熱はなくて、キスした後の唇に残ったのは、ひんやりとした感覚だけだった。

(後書き)

最後まで読んでいただき、有難う御座います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3554u/>

臨也の頬

2011年10月9日10時25分発行